

第15回 EASTS 2023 シャー・アラム大会

The 15th International Conference of The Eastern Asia Society for Transportation Studies 2023
in Shah Alam, Malaysia

青野貞康¹ 廣瀬 健²

Sadayasu AONO, and Takeshi HIROSE

1 はじめに

EASTS (アジア交通学会) は、交通計画や交通工学に関する分野を横断的に取り扱う国際学会であり、隔年で国際大会を開催している。本稿では、マレーシアの首都クアラルンプール郊外に位置するシャー・アラムにて、2023年9月4日～7日に開催された第15回国際大会の概要を紹介する。

2 EASTSについて

EASTSは、アジアにおける産官学の専門家が交通問題に関する議論、研究、人的交流を広く活性化させることを目的に、1994年に設立されたものであり、現在までに19の国、地域が参画している。日本においては、下部組織として1995年にEASTS・Japan (アジア交通学会) が設立され、国際会議やシンポジウム等を通じて、アジア地域の交通専門家と活発な情報交換を行っており、当研究所も法人会員となっている。

EASTSの国際会議は、1995年の第1回マニラ会議以降、隔年で開催されており、アジア地域の大学研究者だけでなく、行政や実務も含めた交通専門家の学術交流や情報交換の場となっている。

3 第15回国際大会の概要

第15回国際大会では、“Towards Sustainable, Smart and Resilient Mobility” をテーマとして、526本の論文が発表された。初日はオープニングセレモニーに続き、マレーシアサインズ大学のAhmad Farhan Mohd Sadullah教授による基調講演、“Mobility Aspirations: Between Advances, Opportunities and Gaps” が行われた。その後3日間にわたり、フォーラム、テクニカルセッション、ポスターセッションが行われた。特に、モビリティの将来やモビリティギャップ、持続可

能なモビリティ等が主要なトピックとして、活発な議論が交わされた。

当研究所からは2名の研究員が参加し発表を行った。青野研究員は宇都宮ライトレールを対象にした通勤MMに関する論文発表を行い、自動車からの手段転換の可能性等について議論が行われた。

廣瀬研究員は道の駅の導入効果に関するポスター発表を行い、聴衆からは日本における道の駅の運営スキームについての質問が見られた。

表-1 当研究所職員の発表論文

投稿者	タイトル
大森、青野	Investigating Preferences of Commuters' Modal Change When Introducing Light Rail Transit: A Case in Utsunomiya City, Japan
伊勢、SUHAIMI、廣瀬	The Impact of Michi-No-Eki with Urban Amenities on Shopping Difficulty and Social Interaction

※下線は当研究所職員



写真-1 会場の様子 (筆者撮影)

参考文献

- 1) EASTS2023 Web サイト：
<https://sites.google.com/view/easts2023/home>